

製品設計情報のグローバルな一元管理へ 海外拠点と合同でPLMシステムを構築

日独横断でプロジェクト推進、NSSOLが効果的に全体をマネジメント

背景

半導体試験装置をはじめとする全製品の設計情報をグローバルに一元管理するため、PLMシステムを導入する。日独の製品開発拠点を横断するプロジェクト体制でシステムを構築し、グローバルに活用できるようにしたいと考えた。



株式会社アドバンテスト
事業推進本部
本部長
横山 賀生氏



株式会社アドバンテスト
事業推進本部
設計業務部
部長
櫻井 靖夫氏



株式会社アドバンテスト
事業推進本部
設計業務部
技術データベース課
久米 聡氏

ADVANTEST®

株式会社アドバンテスト
本社事務所：東京都千代田区丸の内1-6-2
設立：1954年
資本金：323億円（2016年3月31日現在）
売上高：連結1621億円（2016年3月期）
従業員数：連結4494名（2016年3月31日現在）
グループ会社：連結子会社30社

ソリューション

新システムの提案内容とPoCの結果を評価し、PLMソフトウェア製品として「PTC Windchill」を、ITパートナーにNSSOLと独現地SI事業者の連合体を選択。日独横断でプロジェクトを進め、NSSOLが全体をマネジメントする。

海外企業買収を契機に、製品設計情報のグローバルな一元管理を推進

最先端の計測技術を、半導体の開発・製造をはじめ、エレクトロニクス、ヘルスケア、医療などの幅広い分野に展開し、顧客が求める真のソリューションを提案するリーディングカンパニーとしてグローバルに活動するアドバンテスト。同社が、半導体試験装置などの製品設計情報を管理するPDM(製品データ管理)システムの更新時期到来に備え、新たなPLM(製品ライフサイクル管理)システムの導入を検討したのは2011年のことである。同年、アドバンテストはドイツに開発拠点を構える半導体試験装置メーカーの旧Verigyを買収。これを機に、日独の開発拠点を横断するプロジェクト体制での製品設計情報のグローバルな一元管理の検討が開始され、日独の開発拠点が共通に活用する新PLMシステムの導入が決定された。

提案内容とPoCを基にNSSOL連合を選択、日独横断でシステム構築

アドバンテストは複数のPLMソフトウェア製品ベンダーにシステム提案を依頼。提案内容と、PLM製品に対する実務データを利用したPoC(概念実証)の結果を総合的に評価し、PLM製品に「PTC Windchill」を、ITパートナーに新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)と独現地SI事業者の連合体を選択する。NSSOLは独自のPLMシステム構築・導入サービスアセット集/サービス体系「NSBeats(エヌエスピーズ)」を所有するうえ、NSSOLのとおりまとめにより2社の提案内容に高い一体感があつた。日独の製品開発拠点は2年の期間を費やし、新PLMシステムの共通機構についてグローバルな合意形成を行ったあと、順次に導入・移行を行う。NSSOLが全体をマネジメントしながら国内拠点への導入を支援し、独現地SI事業者が独拠点への導入を支援する。

日独拠点が製品設計情報を共有へ、技術のレベルアップなどを期待

プロジェクトは2016年4月にスタート。NSSOLはNSBeatsを適用するとともに、合意形成のための日独合同検討会をリードするなど、プロジェクト全体を効果的にマネジメントしている。プロジェクトは同年7月末にシステム構想フェーズを終え、8月から要件定義フェーズに入った。要件定義のあとは、日本側が先行してシステムの設計と製作を進め、2017年夏ごろに本格稼働を予定。続いて、独側での設計と製作などを経て全面稼働させる計画である。新システムでは基本的に日本のデータセンターでデータを持つが、Windchillが持つレプリカの機能を活用して独側のシステム応答速度を高める工夫が行われる。完成すれば、日独で製品設計情報の効率的な共有が可能となり、製品設計技術の一層のレベルアップや部品購買業務の効率化が期待されている。

今後の展開

プロジェクトは2016年4月にスタート。2017年夏には、日本側でグローバルPLMシステムを稼働させ、続いて独側へ展開する予定だ。日独拠点が製品設計情報を共有することで、設計技術の一層のレベルアップなどを見込む。

Key to Success

アドバンテストが製品設計情報のグローバルな一元管理を目指して新PLMシステムの導入を進める背景は、国内開発拠点と独開発拠点の一体感を高めることである。

事業推進本部 本部長の横山賀生氏は「PDMシステムの再構築を検討し始めたとき、当社が旧Verigyを買収。同社の開発拠点がドイツにあるため、新たなPLMシステムでは本格的なグローバル対応を進めるという方針が決定されました」と振り返る。

事業推進本部 設計業務部 部長の櫻井靖夫氏は「当社は既に海外生産拠点を展開しており、各種システムの応答速度改善や英語対応範囲の拡大などを進めてきました。新PLMシステムではそれを一歩進めて、日独拠点横断のプロジェクト体制で、日独の利用者が納得するシステムを構築したいと考えました」と話す。

同社は厳格な評価により、PLM製品に「PTC Windchill」を、ITパートナーにNSSOLと独現地SI事業者の連合体を選択した。

櫻井氏は「1次選定では7製品とその構築支援体制について提案内容を評価しました。2次選定では3製品に絞り、PoCを行いました」と語る。

事業推進本部 設計業務部 技術データベース課の久米聡氏は、製品への評価に加えて、構築支援体制への評価が決定要因になったという。

「NSSOLは、プロジェクトリーダーのプロジェクトマネジメント力が抜きんでていると感じました。海外拠点を含めたグローバルなシステム構築・サポートの実績が豊富など、グローバルな対応力も高いと思います。NSSOLと独現地SI事業者が連携して支援す

る体制の提案についても、日本側と独側の提案に一体感があり、高く評価しました」

NSSOLは日独の提案内容に一体感 2カ国語を駆使して関係者をリード

プロジェクト開始後もNSSOLへの評価は高まる一方だ。

久米氏は「日本側と独側で製品の開発・設計に対する考え方が異なるため、主要メンバーがテレビ会議などでコミュニケーションを密に取っていますが、NSSOLは日英2カ国語を駆使し、当社の日独拠点および現地SI事業者を、期待通りの確にリードしてくれました。また、CAD連携やERP連携については、グローバルな視点から適切な提案をしてくれます。当社はこれまで、日本の国内拠点のみでシステムの

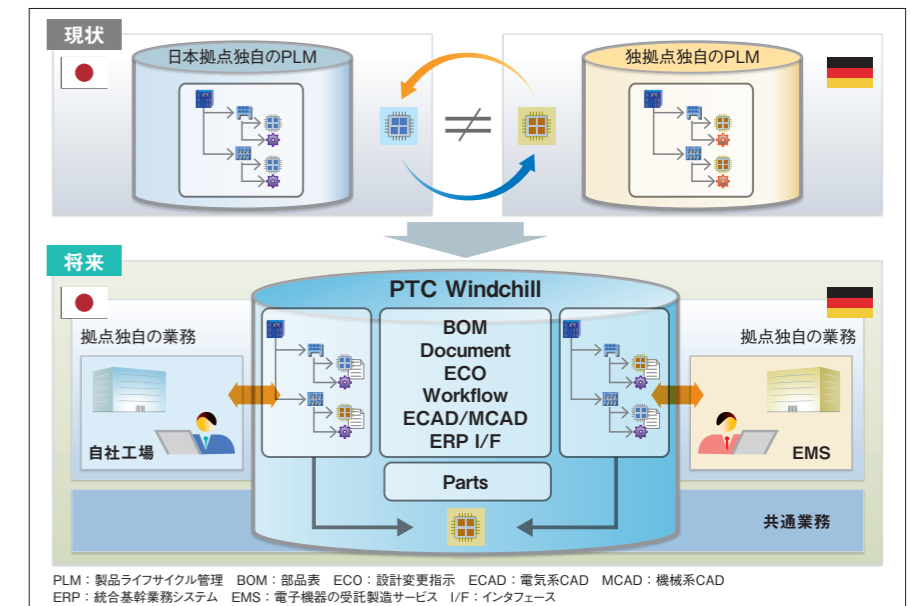
検討・構築をしていましたので、大変心強く感じました」と話す。

構築中のグローバルPLMシステムに対する期待は大きい。

櫻井氏は「新システムを軸に、製品設計情報のグローバルな共有が進めば、設計技術の一層のレベルアップが期待できます。言語の壁を乗り越えて、日独拠点が共通の企業文化を醸成できるようになるでしょう」と語る。

横山氏は「新システムによって日独拠点が共通に利用している部品が体系的に分かるようになるため、部品購買力の向上なども期待できます。製品設計情報が素早く取得できるようになるため、業務効率化にもつながると思います。新システムは15年と長期間にわたって利用する予定です。日独拠点の合意形成と、しっかりしたコンセプトに基づいて構築したいので、NSSOLには引き続き、きめ細かな支援をお願いします」と話す。

アドバンテストが導入を目指すグローバルPLMシステムの概要



コアテクノロジー

NSBeats (NSSOL独自のPLMシステム構築・導入サービスアセット集/サービス体系)、日独横断のプロジェクト体制、日英2カ国語によるコミュニケーション

システム概要

●サーバー: Windows Server 2012 R2 ●RDBMS: Oracle Database 12c ●アプリケーション: PTC Windchill 11.0